

1. 調査報告概要表

作成日平成 20年7月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4790100095
法人名	(有)フレンドリー あい和
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム ビボあいわ
所在地	沖縄県那覇市おもろまち3丁目6番3号 (電話)098-941-8228

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成 20年7月17日

【情報提供票より】(20年 5月26日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・ 平成 19年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	9人 常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 8.1人

(2)建物概要

建物構造	コンクリート造り	
	6階建ての 階 ~	4階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費15,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 0 円
	または1日当たり		1,100円

(4)利用者の概要(5月26日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	4名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 81 歳	最低 62 歳	最高 96 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	あいわ クリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は那覇市の新都心に位置する6階建てビルの4階にあり、近隣にはマンションや大型商業施設、公共施設等が建ち並び、通学中の高校生や小学生の様子も見ることができる。平成20年度は「地域とのつながり作り」を目標に掲げ、7月からミニデイサービスで健康の集いを開催している。他地域から移ってきた働き盛りの住民が多く、自治会としての機能を十分に発揮できない新しい町で、事業所として「できること」を意図的に地域に発信する努力をしている。「寄り添うケア」を介護理念とし、職員がイキイキと働いており、利用者の個人記録にはきめ細かい観察が記録されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初回評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>法人内の他の地域密着型事業所と勉強会をし、管理者が自己評価を作成した。それをスタッフに投げかけ、評価を通してサービスの質の向上につなげたいと考え、現在事業所独自で職員個々の自己評価にも取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回定期的に運営推進会議を開催し、すでに第8回まで実施している。事業所が都心にあり多様な地域から移住した若い住民が多いため、地域代表の参加は得にくいのが実情である。他の委員の参加は良好で活発に意見を述べ、食事や転倒予防のためのスタッフ体制の見直し等、ケアの改善に反映されている。行政とも密に連携しており、今年7月から地域の小学校で健康の集いを開催している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月の便りに利用者ごとの状況報告を添えて送付しており、年2回の家族会の参加率は大変よい。意見箱は設置されているが、家族は面会時にスタッフに伝えたり、家族会で意見を述べたりしている。それが、看取りケアの実施や、家族の希望に応じた個人記録の閲覧、介護記録に家族の意見を書く欄が設けられる等の改善につながっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の清掃活動に参加している。管理者が自治会役員を引き受け、今年7月からミニデイサービスで健康の集いを開催している。今後、地域交流室は自治会総会等でも使用することになっている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人独自の理念以外に、職員で話し合って「寄り添うケア」という介護理念を作り掲示している。書道をしている利用者が書いた介護理念は、見やすく手書きの温かさがあり、現在法人の理念も練習中である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者や家族の声に耳を傾け、日々利用者に「寄り添うケア」を心がけている。職員は引継ぎ時に、利用者の体調等の状況を特に注意して引き継いでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の清掃活動への参加以外に、自治会に働きかけて今年7月からミニデイサービスで健康の集いを開催している。今後他の自治会にも広げたいと考えており、管理者は自治会役員も引き受け、地域交流室は自治会総会等でも使うことになっている。	○	近くには高校、小学校もあり、公共施設や大型商業施設、マンションの建ち並ぶ都心にある事業所なので、地域に向けての情報発信・地域との交流を目指す新しい形の取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人内の他の地域密着型事業所と一緒に勉強会をして管理者が自己評価を作成し、職員は作成にかかわっていない。現在、事業所独自の職員個々の自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価の作成を全職員で行うことにより、自己評価および外部評価の意義の理解がより深まり、サービスの質の改善へとつながることに期待する。職員個々の自己評価の活用にも期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に行われており、記録もきちんとしている。事業所が都心にあるため働き盛りの地域代表が参加できない状況であるが、参加した委員は活発に発言し、食事や転倒予防のためのスタッフ体制の見直し等、ケアの改善に反映されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市との連携は出来ている。ミニデイサービスについて相談し、今年7月から地域で健康の集いを開催するようになった。ボランティア養成や特定検診等についても積極的に行政に相談している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月発行する便りに利用者ごとの状況報告を添えて発送している。年2回開催している家族会への参加率が高く、昨年の参加率は100%であった。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置しているが、家族は面会時に直接スタッフに伝えたり、家族会で意見を述べたりしている。家族の意見により看取りケアの実施や、個人記録の家族への閲覧、家族が意見を記入する欄を設けるなどの検討を行い、実現した。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職する職員はお別れ会で挨拶をし、病気で休むときは事業所で説明して利用者の混乱を避けるようにしている。復職時に本人が挨拶をしてケアに携わっているが、十分とはいえない。</p>	○	<p>利用者のダメージを最小限に防ぎ、かつ新任職員の不安解消のためにも、引継ぎ方法の見直し等取り組みに工夫をお願いしたい。</p>
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月2回行われる法人の研修会には勤務以外の職員が参加し、毎月のミーティングで研修報告と報告書の提出をさせている。研修に参加できなかった職員への伝達研修は実施していない。外部研修の情報等は都度職員に提供して参加を促している。</p>	○	<p>参加できなかった職員への伝達研修を実施することによって、全職員で情報を共有し、日々のケアに活かす取り組みに期待したい。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>沖縄県グループホーム連絡協議会に加盟しているが、職員間の交流が十分行えていない。管理者は法人内の教育委員でもあり、栄養管理について法人内の地域密着型事業所で研修会を実施する企画を進めている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族から利用者に関する情報を出来るだけ多く聞き、本人理解に努め、個人記録に記入している。利用者が事業所の環境に馴染めるようになるまでは、家族に頻りに面会をお願いしている。本人が落ち着かない場合はすぐ電話しており、家族の協力は得られている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「無理なく介護できる関係作り」をモットーに、利用者を納得させるのではなく、スタッフが利用者を理解するようにしている。食事の準備や食器洗いを手伝ってもらったり、言葉使いを覚えてもらうこともある。事業所内には利用者が書いた介護理念が掲示されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知度中等度以上の利用者が多く、自分で訴えることの出来ない方がほとんどである。スタッフは「寄り添うケア」で利用者の心身の変化を観察し、個人記録に記入して情報を共有し、ケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のミーティングでカンファレンスを行い、介護計画に反映させているが、記録はメモ程度である。家族の意見は面会時に確認できているが、以前のようにカンファレンスへの家族の参加を促したいと考えている。	○	カンファレンスで話し合った内容や評価を記録に残し、評価を活かした介護計画に取り組んでいただきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	週1回の訪問看護が入っており、月1回のミーティングでカンファレンスをして、ケア方針の確認や見直しを行っている。急変時は職員と医師が連携して対応している。	○	モニタリングや評価結果の記録を介護計画に反映させるよう、今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況や要望に応じて外出を支援したり、買い物に出かけたりしており、家族が通院介助できない場合は職員が対応している。同じビル内にあるデイサービス利用者との交流も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の希望で決め、家族が通院介助できない場合は職員が対応している。急変時には医師の往診を依頼している。若年性認知症の利用者を受け入れたことにより、認知症専門医との連携をさらに強化したいと考えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族会の中で、看取りケアについて家族から要望が出たので、家族と医師、スタッフで話し合っ延命はしない等の方針を介護計画に入れた。看取りケアの指針、誓約書等については現在スタッフが勉強中である。	○	看取りケアの指針について話し合いを重ねて、誓約書等の書類も早めに作成していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応は利用者に寄り添って、十分プライバシーに配慮している。記録等の個人情報の取り扱いにも気を配っている。しかし、時々トイレ使用時の見守り等が手薄になるなど十分ではない。	○	利用者一人ひとりに対する寄り添うケアの実現のためにも、利用者の状況に応じたケアの取り組みの工夫をお願いしたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	定時に起床を促すが、利用者は起きたいときに起きている。食事も食べたいときに食べられるように、利用者の状況を見て取り置きしている。入浴も希望すれば毎日入浴できるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳等を利用者も一緒に行っている。利用者は自分の湯飲みを認識しており、食事のときの席は湯飲みの位置で決まる。食事について法人の管理栄養士が年2回抜き打ちチェックを行うので食事内容は毎回写真に撮って記録に残している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	同性介助を原則としている。入浴嫌いの方へは、設定した曜日に関わらず、利用者が希望すればいつでも入浴できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	書道の得意な利用者介護理念を書いてもらい事業所内に掲示している。部屋の入口の飾りつけ、ゴーヤー栽培、熱帯魚の飼育、プランターへの水やり等、出来ること・やりたいことを利用者によってもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのパン屋さんに行ったり、公園を散歩したりして支援している。外出できない利用者はテラスに出でのんびり過ごしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵はかけていない。利用者の状況により家族の承諾を得て一時的にかけたこともあるが、現在は見守りしている。自ら鍵をつける利用者もいるが、家族には本人の状況等を説明している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	食糧や電池等の災害時の備蓄は数日分備えがある。避難訓練も実施しているが、地域の協力を得るまでには至っていない。今後事業所上階の住民の協力が得られるよう働きかけていくと共に、研修の実施も予定している。	○	ビルの4階にある事業所なので、利用者を安全に非難させるために、地域との連携を密にして、上階の住人や地域の人々の協力が得られるような働きかけに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年2回法人の管理栄養士の抜き打ちチェックがあり、食事は食べやすく工夫し、摂取量も確認している。1ヶ月に1回体重測定、尿検査等を実施し、水分補給の支援が必要な利用者は、摂取量を観察しながら支援している。栄養管理についての勉強会も計画している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所のカウンターの前は、食堂兼日中活動のスペースである。後にテラスを仕切って作った多目的室があり、サークル活動をしたり利用者がのんびり過ごすこともできる。テラスでは利用者が、歩行訓練やゴーヤーなどの野菜作りをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の荷物はベッドや収納タンス等も含めて、全て本人の持込である。配置も本人や家族に任せており、若い頃の写真や家族の写真を飾った部屋もある。入口は分かりやすいように自然の写真をはったり、自作の飾りをつけた利用者もいる。		